

RECURRENT NEWS



海外リカレント研修／ホーチミン市師範大学にて撮影

2024年度トピックス

1. 「海外リカレント研修」(ベトナム)を実施！
2. 「グローバルリテラシー教育プログラム」を開始！
3. 「金融リテラシー教育プログラム」を開始！

リカレント教育センターは、社会人等を対象に多様な年齢層の多様なニーズに対応した「学び直し」のためのリカレント教育プログラムや、地域社会と連携したリカレント教育プログラムを企画・運営しています。このほか、大学の研究・教育の成果を一般に開放する公開講座の企画・運営も行っています。



所長挨拶

リカレント教育センターは、2024年春にグローバルリテラシー教育プログラムを開講し、秋には2025年度開始予定の金融リテラシー教育プログラムのプレ開講を実施いたしました。また、昨年の韓国に続いて今春にはベトナムで2回目の海外リカレント研修が実施されました。国境を越えて「人生100年時代の学び」を実践される履修生の皆さんのお学習意欲には頭が下がる思いがします。引率教員の小西先生と職員の中村さんの献身的な努力には感謝いたします。海外リカレント研修および金融リテラシー教育プログラムのプレ開講の実施には、「未来サポーターズ募金」からご支援を頂きました。心よりお礼申し上げます。

リカレント教育センター 所長 梅本 剛正

2024年度 海外リカレント研修(ベトナム)



市内の交通渋滞の様子

2025年2月23日から2月28日の6日間、海外リカレント研修としてベトナムでのフィールドワークを実施しました。参加者は、人生100時代の学びプログラム、ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム、グローバルリテラシー教育プログラムの履修生から募集し、今回は最年少者63歳、最年長者81歳の11名の方が参加されました。現地では全学共通教育センター小西幸男准教授の引率のもと、ホーチミン近郊に拠点を構える日系企業や、戦争証跡博物館等を訪れ、活気にあふれるベトナム・ホーチミンシティの現在のリアルな様子や戦争の歴史・文化について学ぶとともに、甲南大学の海外協定校である国立ホーチミン市師範大学では本研修の参加者と現地の現役学生がそれぞれ自国に関するプレゼンテーションを行い、文化交流を行いました。

行程表

日程	内容
2/23 (日)	7:30 関西国際空港集合 10:00 → 遅延のため11:45 関西国際空港 出発 15:45 ホーチミンシティ 到着 ホテルチェックイン後、夕食（ベトナム料理）、市内視察 ※写真C
2/24 (月)	＜戦争の歴史と文化を体感＞ 9:00～市内視察（天后宮、関帝廟、統一会堂、戦争証跡博物館、ベンタン市場、サイゴン大教会） 夕食後、自由行動
2/25 (火)	＜日系企業訪問＞ 8:00～郊外の工業団地へ専用車にて移動 10:30 → 交通渋滞のため10:50～KEY PLASTICS(VIET NAM) CO., LTD. 様を訪問 ※写真A・B 13:00～OMRON Healthcare Manufacturing Viet Nam Co., Ltd. 様を訪問 夕食後、自由行動（市内を巡る2階建てバスのナイトツアー、お土産ショッピングなど）
2/26 (水)	＜仏教寺院・カオダイ教寺院を見学＞ 7:30～ タイニン省へ専用車にて移動 11:00～15:30 バーデン山のケーブルカーで山頂へ 仏教寺院・仏塔・展望エリアを見学 ※写真E 16:00～16:30 カオダイ教寺院を見学 ※写真D 16:30～19:45 ホーチミンシティへ移動 ホテル着後、夕食等は自由
2/27 (木)	＜国立ホーチミン市師範大学での交流プログラム＞ 8:45～ 専用車で師範大学へ移動 9:15～ 【午前の部】 紹介、挨拶 現地学生による発表 ・ベトナムの伝統的な結婚式の習慣 ・ベトナムのテト（旧正月） 小西先生による日本舞踊 地唄舞「黒髪」披露 13:00～15:00 【午後の部】 現地学生によるベトナムポップス歌唱披露 リカレント履修生による発表 ・日本の生活 ・日本の若者を取り巻く状況 ・日本の食文化 ・日本語の方言、日本語について ※写真F ・日本での就労環境について 記念撮影・終了 夕方 サイゴンスカイデッキタワー、自由行動 水上人形劇観劇 夕食後、空港へ（空港待機）
2/28 (金)	0:10 ホーチミンシティ国際空港 出発 7:00 関西国際空港 到着 7:50 関西国際空港にて解散



写真A

写真B

参加者レビュー 研修に参加して（成果等）

＜人生100年時代の学びプログラム「大人の自己探求」コース履修生＞

今回海外リカレント研修に参加した理由は、コロナ禍以降海外渡航から離れていた事及びベトナムを訪問経験がなく、最近経済発展が著しい国に興味を抱いていた事等からであった。

研修前に2回の事前学習が開催されると共に、熱心な参加者から複数の本が紹介され、ベトナムの歴史や現況について参加者は知識をインプットして、研修に臨んだ。

現地では、ベトナムへ進出している日系企業を訪問し、現地責任者から状況をお聞きするとともに工場内部を視察して、多くのベトナム人(若い労働者や女性が中心)が勤勉に手際よく働いている姿が印象的だった。又ホーチミン市師範大学を訪問し、ベトナムの正月の料理や結婚に関する儀式等の話を聞き、質疑を行った。一方研修参加者も日本の方言や料理、採用、就職状況に関して発表し、日本の方言に対して、上手に発音する学生の器用さには感嘆した。大変有意義な時間を過ごせた。

ホーチミンの街並みは、1000万人の活気あふれる大都会であったが、路地裏や郊外を訪問すると、まだまた未開の地である印象を受けた。盛りだくさんの内容が盛り込まれ、予定された行程を完全に消化し、安全や参加者の健康にも配慮された貴重な研修であった。企画された大学関係者に深く感謝を申し上げます。

<人生100年時代の学びプログラム「大人の自己探求」
コース履修生>

海外リカレント研修は一昨年のソウルに続き2回目の参加です。参加目的は、①自分の思考が「ベトナム＝ベトナム戦争」のままであり「ベトナムの今」を自分の目で見ること②異文化体験での自己研鑽③参加されるリカレント仲間との交流です。

ベトナム戦争証跡博物館で、沢田教一氏の「安全への逃避」を見た時は激しく動搖しましたが、研修を進める中で元気で若いベトナムを実感することができました。同国の今後の発展が楽しみです。

プログラムは非常に多角的な内容で、ベトナム戦争と南ベトナム政府の記録、宗教、同国に進出した日本企業への訪問、ホーチミン市師範大学の学生との交流と濃密な内容でした。特にホーチミン市師範大学でベトナム人学生に「日本企業の採用活動」をプレゼンしたのは良い自己研鑽であり、学生の気づきになれば幸いと思う次第です。

最後に、研修を企画いただいた甲南大学、引率の小西先生と事務局スタッフ、工場へご案内いただいた片山副理事長、参加したリカレントの仲間たち、その他すべての関係者に感謝申し上げます。

<人生100年時代の学びプログラム「ネクスト・キャリアをどう生きるか」コース履修生>

50 年以上前の高校生時代、反戦運動を経験しましたが、初めてベトナムを訪問できて感慨深いものがありました。

今回の海外研修は、日系企業の工場訪問とホーチミン市師範大学との交流が特徴的でした。工場視察は現地採用の女性リーダーが日本語で説明があり、現地人材の成長を期待する日本企業の姿勢が理解できました。ホーチミン市師範大学では多数の学生が集まり小西先生が先頭になり全員で日本文化等を紹介、学生からは日本語でベトナムの結婚や正月の実演、食べ物の紹介をいただき大いに盛り上りました。

滞在ホテルの近隣の通りでは早朝からバイクが通り抜け、路上では多数の露店が海産物、果物、野菜などが売られていきましたが、働いているのはほとんど女性でした。

ベトナムでの見聞は普通の人々の暮らしづくりまで踏み込めませんでしたが、農村から多くのベトナム人が日本に来て活躍していると聞いています。これからも大いに成長が期待できる人々であると思います。



写真C

<人生100年時代の学びプログラム「多文化共生、グローバル社会で生きる」コース履修生>

本 音を語る気丈な二人の女性に出会った。ガイドのTさんと師範大学のN先生である。Tさんは大統領府のホーチミン像を「南を睨み続けていると感じる人もいます」と云った。「(ベトナム戦争は北と南と解放戦線) 三つの勢力の争い。代理戦争ではない」とも付け加えた。私の予断は一気に吹き飛んだ。N先生は会食で運よく隣の席に座られ、私の質問に丁寧に応えてくださった。驚いたのは二人の結婚観の完全なる一致だった。「北と南の人の結婚は絶無」と同じ見解を示したのだ。家族親戚一同がそれを決して認めないと。師範大の女子学生は南ベトナムにおける結婚式の手順と模様を屈託なく発表してくれた。なのに、戦争の傷跡はあまりにも深い。「頭では理解できても心が分かろうとしない」といえるのではあるまいか。アンビバレンツな気分。多文化・共生の課題をどうする?——しかしである、対話を通して南ベトナムの女性の強靭な精神に触れたのは、得難い収穫だった。感謝したい。

<人生100年時代の学びプログラム「多文化共生、グローバル社会で生きる」コース履修生>

私 のベトナムは「ベトナム戦争とその後のドイモイ政策」をニュースで目にした記憶がある国です。ASEAN、WTOにも加盟し経済成長率もここ数年は5~6%と経済成長を果たしています。また、平均年齢は39.9歳(2024年) 日本50.5歳。

私たちの研修はホーチミン市を中心に市内観光、戦争の歴史と文化、日本企業の訪問、仏教と新興宗教施設の訪問、主題のベトナム国立ホーチミン市師範大学での交流と盛りだくさんの見学、交流でした。日本語を学ぶ師範大学では学生たちが両家の顔合わせ、結婚式のリアルな演技で次世代の若者たちの家庭観も説明されました。私は日本の若者世代について発表しました。5年後には欧米諸国に並ぶ同世代になるでしょう。成長が楽しみです。

共和国でありながら資本主義を目指す国です。食料の配給制が1980年代になくなり、ドイモイ政策に政治、経済を変えて国家を維持する姿は、今のホーチミン市のインフラ整備状況で確認できます。まだまだ成長する国家だと思います。



写真D

<人生100年時代の学びプログラム「多文化共生、グローバル社会で生きる」コース履修生>

フィールドワークは以前から興味があり、参加させていただきましたが、大変意義深い充実した研修旅行になりました。日本を出て5時間半、ガイドさん付きの専用車でベトナム市内視察、日系企業への訪問、郊外の寺院へのショートトリップ、ベトナム大学での交流会、水上人形劇などの内容も、ホテルや毎回の食事もどれも大満足できるものでした。久しぶりに訪れたホーチミンは信号はできてはいたものの、相変わらずのバイクのラッシュで都市の中心はすっかり都会になっていました。でも郊外へ出たり路地を曲がると懐かしい街並みが残っていました。日系企業では食堂やスポーツ施設など、福利厚生も整っており、文化の違う現地の人たちとは何よりコミュニケーション

が大切とのことでした。機械化も進んでいましたが、たくさんのワーカーの人たち、会社の規模の大きさに驚きました。中国やフランスの影響を受けてきた食文化は豊かで肉類よりも海鮮、野菜がたっぷりのヘルシーな食事で、味も濃くないところから日本人にも人気があるそうです。

大学ではベトナムの結婚、テトー旧正月などを教えていただき、リカレントのみんなの発表も本当に素晴らしい内容でした。日本との違い、似たところ、感じたことは書ききれませんが多文化共生、異文化交流というテーマにぴったりの研修旅行だったと思います。大変お世話になった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。



写真E

<人生100年時代の学びプログラム「多文化共生、グローバル社会で生きる」コース履修生>

ホーチミンは、多くの人であふれ、車よりはるかに多数のバイクが2人乗り、3人乗りで道路を席巻し、道路を歩いて横断するのをためらう程の喧騒でした。街中心部は、中央郵便局などのフランス植民地時代の歴史的建築物と多くの近代的高層ビルが並立し、歴史と現代が相まった独特の雰囲気がありました。また、ベトナム料理は、米を主食とし、野菜やハーブを豊富に使用したヘルシーで甘辛い味わいで、おいしい料理ばかりでした。

市内の統一教会、戦争証跡博物館、ベンダン市場を見学し、戦争の歴史や文化を体感するとともに、日系企業を訪問し、ベトナム人の労働意識や社員の福利厚生に取り組む企業の取り組みを学ぶことができました。また、仏教寺院や新興宗教であるカオダイ教の施設では、宗教の多様性に触れることができました。

現地の雰囲気、人、文化、ビジネス環境等に触ることで、資料だけでは得られない新たな視点を体感することでき、大変有意義な研修でした。

<人生100年時代の学びプログラム「多文化共生、グローバル社会で生きる」コース履修生>

ベトナムは、長い間他国に支配されていた歴史的背景があり、各国文化が混ざりあっています。特に植民地だったフランスの名残りが見受けられ、ホーチミンなどコロニアル様式と呼ばれるフランス風の建築物が美しい。

そしてカフェ文化が非常に発達しており、自国でコーヒー豆の輸出をしている事もあり、フランスのカフェ文化から独自の進化を遂げたのです。茶畑栽培も盛んな事から、ハス茶や緑茶などお茶も流通しています。そして日本と同じく稻作の盛んな農業国です。また亜熱帯の地域性を生かして、野菜や果物も豊富にされます。食のスタイルは日本人の食文化と類似点が多いです。

朝の活動開始が早い分、昼寝で補います。日系企業訪問させて頂いた時も、時間を区切って休ませたり、福利厚生がしっかりしているなと思いました。工場視察させて頂いて、物作りの素晴らしさを学びました。

最後の国立ホーチミン師範大学での交流で、お互いの国、文化、国民性を理解する事が出来ました。

ベトナム人は、一般的に勤勉で温厚です。儒教の教えを大切にする価値観が根付いていることから、情緒面でも日本に近い部分も多いと思います。近年は、人口増加が目まぐるしく、若い世代がとても多く活気のある国です。これからもっと目まぐるしい成長を遂げると思います。そんな国に研修に参加させて頂き、これから的新たな目標を持つことが出来ました。



写真F

<人生100年時代の学びプログラム「多文化共生、グローバル社会で生きる」コース履修生>

私にとって初めてのベトナムでした。以前より行ってみたい国でしたので、海外研修という責任感とともに、ワクワク感いっぱいに参加させていただきました。

さて、初日に小西准教授より一つ目の課題をいただきました。それは『思ったより』をキーワードにベトナムの印象を考える」というものです。翌日には二つ目の課題として「ホーチミンの町をどう思うか」をいただきました。この示唆に富んだ問いは、「思ったより街路灯が少ないので電力事情が悪いせいか?」「大きな木が少ないのでなぜ?」「早朝の露天商で見かけるのは女性ばかり?」「公園に戦闘機や戦車を展示する意味は?」等々、町の景色を眺めるだけではなく、景色の意味を考え、学ぶきっかけになりました。

また、企業訪問では従業員の若さに驚き、ホーチミン市師範大学では学生達の周到なプレゼンテーションに感動しました。ここでも「今のベトナムの事情」を学ぶきっかけをいただきました。他にも個人旅行ではとても得られない貴重な体験ばかりで、学びの多い海外研修でした。

<人生100年時代の学びプログラム「大人の自己探求」コース履修生>

ベトナムホーチミン研修旅行の私の目的は今回も私の永遠のテーマ「自己探求 自分探し」でした。初めての国を訪れ、その国の国民と話し、日常生活、観光文化経済を通じて学ぶ。そんな中から新しい自分を見つけ出す。しかし、なかなか簡単に新しいタカヒロは見つかりません。

ベトナムは昨年8月旅行したインドのマイソールと同じく活気溢れる、すごいスピードで発展進化する国でした。それは1駅だけ体験で乗った地下鉄に象徴される様に。

私がとても気になることが一つありました。平均年間所得50万円しかないのに、国民は何故元気があるのか?私の情報の50万円が間違って、ホーチミンでは実際は倍の100万円近くあるようです。それにしても低い所得。物価が安いから十分生きていけるとしても...私は無理。どこかに何かのからくりがあるのでは...?

<人生100年時代の学びプログラム「多文化共生、グローバル社会で生きる」コース履修生>

私は、この研修に多民族国家であるベトナムの人達が過去の悲惨な戦争経験を乗り越えどう共生の道を辿り、どんな生活をおくっているのかを肌で感じたく参加した。

空港を降りてホーチミン市に向かう。まず、コロニアル建築が残るエキゾチックな街並みの美しさに魅せられる。しかし、それとは全く反対にどこから湧いてくるにかわからない多くのバイクと人の波に驚かされる。2人乗りは当たり前、中には子供2人を挟んで一家4人がバイクに乗っており、日本では全く考えられない光景であった。この喧騒が朝早くから夜遅くまで続く。交通ルールもない危ない街だと思っていたが、皆若く、エネルギーにあふれている。これが今のベトナムの象徴なのだと改めて実感した。

研修では、ベトナムの食文化体験や寺院等の市内視察、現地企業の訪問、国立ホーチミン市師範大学での学生との交流と多面的な内容が組み込まれ、単に話を聞くだけでなくその場で質問したり、この目で見たりと私が望んでいたベトナムの人達の生活・文化を肌感覚で感じる事ができた。戦争証跡博物館ではこの様な問題に我々がどうか関わっていくのか考えさせられた。多くの宿題を持ち帰った研修でもあった。



2024年度担当教員からのコメント

今回の海外研修では、平均年齢が若く国としても成長しているベトナムにて研修を行いました。社会主義の国であり、国民の社会観が昭和の高度成長期の日本と似たところのある国を歴史史跡、戦争証跡博物館、宗教施設、市場を通して文化や価値観を知る機会と現地で展開する日系企業を訪れることで企业文化がどのように違っているなどを多角的に知る機会を得て、ベトナムをより深く理解することができたと思います。また、現地の大学の学生から文化と風習、社会観のプレゼンテーション、リカレント生からは日本の文化、言葉、企業への就職などのベトナムの学生にプレゼンテーションを行い、意見交換することで、世代を超えた学生たちがそれぞれに学ぶ機会を得ました。この研修で日本の評価を比較検討の中で気づき、今後の日本の在り方なども考えるため多くのことを学べたよい機会となったと確信しています。

全学共通教育センター 准教授
小 西 幸 男

グローバルリテラシー教育プログラム（2024年度新設）

このプログラムでは、様々な国の人々と文化的多様性を尊重しながら調和・共生していく際に備えておきたい相互理解や価値想像力、社会貢献意識などの素養や思考力を深めることを目指します。

年間を通して言語講座の英語コースで語学力をブラッシュアップしながら、前期に開講する講義科目で実際の社会問題を題材に学ぶことで国際社会における現状について理解を深め、後期に開講するワークショップでは、本プログラムの履修生がプログラムテーマに関連する分野から各自で関心のあるトピックを選んで調査し、考察したことを英語でまとめてクラス内で説明・発表を行います。ワークショップの担当教員（英語ネイティブ教員）は、履修生の調査や発表準備の指導を行います。



前期の平井先生の授業／ベナンの方との交流

2024年度受講生の声



リカレントワークショップ／英語で発表を行いました。

現在私は神戸市中央区の人と防災未来センターで語り部ボランティアをしています。センターには外国の方もたくさん見えられます。

センターでは語学ボランティアの方もおられます、おられない場合には説明を求められることもあります。その場合、たどたどしい英語で説明していたのですが、なかなか思うように説明することが出来ず、心機一転、英語を甲南大学で勉強してみようと思いました。

前期の平井先生の授業ではミャンマー、ベナン、イタリア、イランの方やカナダ移民の日系の方、ハワイ大学の先生など多彩なゲストから、国の文化や歴史、教育などを実際に英語を通じてお話しすることが出来ました。ミャンマーやベナンの国情などは知らないことが多く、改めて自分が日本のことしか知らないことを痛感しました。本コースでは、単に

語学力のスキルアップだけでなく、いろんな国の方と話すことで新たな視点やものの考え方を広げることが出来ます。

私の場合は日ごろの授業での他の受講生と感想を日本語で話したりするときにいろんな感化というか新しい学びをしていて、それが本プログラムの魅力であると思っています。さらに本プログラムでは、オプションで語学や一般科目を外部で受講するよりも割安な値段で受講することが出来ます。私は前期は語学と福祉心理学、後期は語学を受講しました。語学では学部や大学院の学生さんとプレゼンの練習を行うのですが、学生さんが日ごろどんなことに关心を持っているのか等を伺うことが出来ました。本プログラムを受講し、たくさんの方とお話しすることで視点が広がり大変ためになったと思っています。

金融リテラシー教育プログラム（2024年プレ開講を実施）

「金融リテラシー教育プログラム」は2025年度春より本格開講します。本格開講に先立ち2024年度秋にはプログラムの一部をプレ開講しました。近年では初等・中等教育の授業において金融教育が実施されていますが、経済的に自立した現役の社会人こそ、生活スキルとしての金融リテラシーを身に付ける必要性が高いともいえます。本プログラムは、このような社会的ニーズに応えるために、金融ビジネスとは一線を画した大学による中立的な立場から金融教育を行うことを目的とするものです。目まぐるしく変化する経済社会において、生活の質を高めるために必要なお金に関する知識や判断力を磨き、自らの家計管理やライフイベントを想定したマネープラン、緊急時等に備えた金融資産管理などについて考えます。

＼受講生の声／

資産運用への抵抗が少なくなりました。きちんとした知識を持てば前向きに資産を増やすと思いました。

金融商品の見方やニュースの見方が少し変わりました。

甲南大学リカレント教育センター

神戸市東灘区岡本8-9-1

recurrent@adm.konan-u.ac.jp

(078) 435-2598 (直通)

◆人生100年時代の学びプログラム

人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の特性を伸張させるという本学創設の教育理念のもと、リタイアした方々を含めて幅広い年齢層の履修者が現役学生と一緒に教室での世代を超えた学習機会を提供するほか、各自の関心のあるテーマについて担当教員やプログラム履修生との対話の場を設けています。2024年度は5コースで開講しました。2025年度は6コースで開講します。

◆ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム

地域社会の課題解決や新たな魅力を創出するスマートビジネスを受講生が実現することを目標に据えた実践型の起業家育成プログラムです。現在、本プログラムの3期生（2024年度後期～2025年度前期）が岡本キャンパスで開講している土曜日の授業に参加しながら各自のビジネスプランのブラッシュアップに取り組まれています。